

動物実験施設

1 構 成 員

	平成 26 年 3 月 31 日現在	
教授	0 人	
病院教授	0 人	
准教授	1 人	
病院准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
病院講師	0 人	
助教（うち病院籍）	1 人	(0 人)
診療助教	0 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	2 人	
その他（技術補佐員等）	8 人	
合計	12 人	

2 教員の異動状況

- 1) 加藤 秀樹（准教授）（H10.12.1～19.3.31 助教授； 19.4.1～現職）
- 2) 高林 秀次（助教）（H15.11.1～19.3.31 助手； 19.4.1～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 25 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	2 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	6.15	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの
1. Fujii Y, Kitaura K, Matsutani T, Shirai K, Suzuki S, Takasaki T, Kumagai K, Kametani Y, Shiina T, Takabayashi S, Katoh H, Hamada Y, Kurane I, Suzuki R.. Immune-related gene expression profile in laboratory common marmosets assessed by an accurate quantitative real-time PCR using selected reference genes. PLOS ONE 8, Issue 2, e56296, 2013. 【免疫学】、[3.73]
 2. Fahey JR, Katoh H, Malcolm R, Perez AV. The case for genetic monitoring of mice and rats used in biomedical research. Mamm Genome 24(3-4):89-94, 2013. 【実験動物学】、[2.42]
インパクトファクターの小計 [6.15]

(2-1) 論文形式のプロシーディングズ

(2-2) レター

(3) 総説

(4) 著書

(5) 症例報告

4 特許等の出願状況

	平成 25 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

5 医学研究費取得状況

(万円未満四捨五入)

	平成 25 年度	
(1) 文部科学省科学研究費	1 件	(100 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0 件	(0 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件	(0 万円)
(4) 財団助成金	0 件	(0 万円)
(5) 受託研究または共同研究	0 件	(0 万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	0 件	(0 万円)

(1) 文部科学省科学研究費

加藤秀樹（分担者）. 新学術領域研究がん研究分野の特性等を踏まえた支援活動、100 万円（継続） 代表者 東京大学医科学研究所 今井浩三

(2) 厚生労働科学研究費

(3) 他政府機関による研究助成

(4) 財団助成金

(5) 受託研究または共同研究

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表，総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	0 件
(2) シンポジウム発表数	2 件	2 件
(3) 学会座長回数	0 件	2 件
(4) 学会開催回数	0 件	0 件
(5) 学会役員等回数	1 件	2 件
(6) 一般演題発表数	0 件	

(1) 国際学会等開催・参加

1) 国際学会・会議等の開催

2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演

3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

・ Katoh H. Genetic monitoring for inbreds and closed colony strains. In Workshop: Aspects of genetic monitoring in rodents. 12th FELASA/SECAL Congress. Barcelona(Spain), 10-13 June , 2013.

・ Katoh H. Genetic techniques: Classical and advanced methods. In Seminar: Quality animals are essential for quality research. 64th AALAS National Meeting. Baltimore(USA), 27-31 October , 2013.

4) 国際学会・会議等での座長

5) 一般発表

口頭発表

ポスター発表

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

2) 学会における特別講演・招待講演

3) シンポジウム発表

・ 加藤秀樹. 動物実験におけるコンプライアンス、第 60 回日本実験動物学会総会. 2013 年 5 月、つくば.

・ 加藤秀樹. Russell と Burch が提唱した演出型と統御. 第 47 回日本実験動物技術者協会総会. 2013 年 9 月、倉敷.

4) 座長をした学会名

・ 第 60 回日本実験動物学会総会. 2013 年 5 月、つくば.

・ 第 47 回日本実験動物技術者協会総会. 2013 年 9 月、倉敷.

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

1) 国際学会

・ 加藤秀樹: International Council for Laboratory Animal Science (国際実験動物科学会議)、Laboratory Animal Quality Network 委員会・委員

2) 国内学会

- ・加藤秀樹：日本実験動物技術者協会・常任理事
- ・加藤秀樹：公益社団法人日本実験動物学会、学術集会委員会・委員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

(1) 国内の英文雑誌等の編集

(2) 外国の学術雑誌の編集

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

- ・加藤秀樹：1回、Experimental Animals（日本）
- ・加藤秀樹：1回、Journal of Veterinary Medical Science（日本）

9 共同研究の実施状況

	平成25年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	2件
(3) 学内共同研究	0件

(1) 国際共同研究

(2) 国内共同研究

1. 加藤秀樹. 実験動物のクローズドコロニーに関する遺伝学的研究（公益財団法人実験動物中央研究所 野村龍太）.
2. 加藤秀樹. コモンマーモセットの育種遺伝並びに繁殖学的研究（公益財団法人実験動物中央研究所 伊藤豊志雄）

(3) 学内共同研究

10 産学共同研究

	平成25年度
産学共同研究	0件

11 受賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

コモンマーモセットの精巣サイズに関する基礎研究を行った。動物の繁殖と精巣の大きさは深い関係があるため、成熟マーモセットの精巣体積を把握しておくことは重要である。本研究では、動物実験施設内のマーモセット精巣体積の平均値とテストステロン量を測定し、標準値を明らかにした。その結果、正常個体の精巣体積の平均値は右が $438.8 \pm 133.3 \text{ mm}^3$ 、左が $433.1 \pm 113.3 \text{ mm}^3$ であった。左右精巣体積に有意な差はなかった。精巣体積は年齢と共に増加した。正常個体の TES 値の平均値は $54.8 \pm 35.3 \text{ ng/mL}$ であった。

13 この期間中の特筆すべき業績, 新技術の開発

14 研究の独創性, 国際性, 継続性, 応用性

実験動物のクローズドコロニー、特にマウスおよびコモンマーモセットを対象として育種、遺伝ならびに繁殖学的研究を長年に亘り、継続して行っている。具体的な成果は毎年原著論文として発表し、あるいは、学会等で報告している。

15 新聞, 雑誌等による報道